

南小だより

R元. 5. 20



南風

< 令和元年度 第 4 号 >

発行：玉村町立南小学校
群馬県佐波郡玉村町角刈5011

電話：0270-65-9000

<http://www.town.tamamura.ed.jp/minami-e/>

いろいろな活動に取り組んでいきます！

今年度も、朝の時間を利用した体育集会やオアシス活動、音楽集会や児童集会を実施していきます。

《体育集会》

体育集会は、『・健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。・みんなで運動を親しみ、日常の運動遊びにつなげられるようにする。』ことをねらいとして年間28回実施していきます。1回目と2回目は全校児童による校庭での整列の仕方を確認し、体操の隊形の開き方などを練習しました。5月8日の3回目からはサーキットトレーニングが始まりました。これから1年間、ランニングやなわとびなど様々な運動を取り入れながら、子どもたちの体力向上と運動意欲の高揚に努めていきます。



《オアシス活動（縦割り活動）》

オアシス活動は、『異学年の友だちとの活動を通し、互いに認め合い支え合うことができる関係を築くとともに、集団の一員としての自覚を高める』ことをねらいとしています。活動内容は、室内や校庭でできるレクリエーション、ボランティア活動、行事に向けての準備等があります。初回は、班ごとに教室に集まり、自己紹介や6年生による活動の説明、やってみたい活動についての意見交流などが行われました。上級生が下級生を面倒見ながら、異学年で交流する活動は、思いやりの心やコミュニケーション能力の育成にもつながるものであり、南小の特色ある活動の一つです。

《音楽集会》

音楽集会は、『・みんなで歌い合わせることによって生まれる豊かな表現や、楽しさを体験させるとともに、学級や学年を越えた友だちとの輪を育む。・様々な曲を歌ったり楽器を演奏したりして、よりレパートリーを広げ音楽を通して潤いのある生活にする。』ことをねらいとして年間8回実施します。5月15日に行われた1回目は、校歌の練習を行いました。最初に6年生の代表の児童により、歌う姿勢の確認をしました。全校の児童による校歌の合唱では、元気で美しい歌声が、体育館いっぱいに広がりました。2回目からは各学年の発表になります。



《児童集会》

児童会活動は、『異学年の児童同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して特別活動の目標に掲げている資質・能力を育成することを目指す。』ことを目標としています。その中で、児童集会は年間8回、各委員会の発表を中心に行っていきます。5月17日に行われた1回目は、①学級員会の紹介、②正しい遊び方を楽しくて伝える活動の紹介、③「あいさつ運動」PR、④みんなが仲良くなるための活動「全校ハイタッチ」などを行いました。退場するときに行った全校ハイタッチは、掛け声とともに全児童が互いにハイタッチを行い、ものすごく盛り上がることができました。

親として知っておきたい。豊かな心を育てる5つの方法

現在子育てを頑張っている人の中には、「豊かな心」というものをどうやって育てていったらいいのかとわからない。また、なんとかなるだろうと思っている人もいるかもしれませんが、赤ちゃんは真っ白な素材であり、親が与えたもので一生をほぼ過ごすようなものです。成長期から成人にかけて自分を模索し、自分を形成しますが、生きていく上での土台となる心の拠り所(よりどころ)というのは、小さい頃に親が与えたものだったりします。そこで親として知っておきたい豊かな心を育てる5つの方法についてご紹介します。



1. 否定をしない

豊かな心を育てる時、大事な事は「否定をしない」という事です。これは子供に対してだけでなく自分自身に一番してはいけない事です。人に与えることができる人というのは、まず自分自身に与えて、しっかりと自分を満たしている人の事をいいます。誰かに豊かな心を与えて育てていきたいのなら、まずは自分自身の豊かな心を育てるようにしましょう。例えば「常識」と呼ばれるものとか離れた思考を持っていても、それを自分だけは「否定しない」事だったり、子供が間違えた事をした時に頭ごなしに否定をしない事だったりします。特に小さい頃は善悪がないので「悪い」と思って行動をしません。なので「こうするとこうなるよ」といった言い方をして、なぜ「してはいけないのか」なぜ「ダメ」なのかという事を根気強く教えて行くことが豊かな心を育てる方法の一つでしょう。否定をしないで育てると視野が広い子供に育ちます。自分の事を否定されないから、相手の事も否定しません。なので、いろんな価値観を持った人との交流を図れるような子になるでしょう。きっとユーモア溢れる考え方で自分らしくいることができるようになります。

2. 褒める

豊かな心を育てる時、「褒める」事を忘れてはいけません。この時に気を付けたいのが、何かが出来た時に褒めると「何か出来ない」と褒めてもらえない」という認識を持ってしまうので、自分や子供が既に持っているものに焦点を当てて褒めるという事を実践してみてください。例えば、絵を描くのが上手なら「やっぱり上手だね」「すごいね」と褒めましょう。自分が既に持っているものには、人は焦点が向きにくく、ないものを求めてしまう傾向になります。豊かな心は、自分が既に持っているものに目を向けることから始まりますので、是非自分や子供に向けてそういった訓練を小さいうちからやっておきたいものです。

3. 本を読み聞かせる

本は、感受性を豊かにし、豊かな心を作ります。人の痛みが分かる子になります。毎日だけでなく一緒に布団に入って小さいうちから本を読み聞かせると自然と豊かな心が育つでしょう。特に、本はストレス解消にもいいとされていますし、大人になってから読み返してみると心が温まる絵本も沢山あります。絵から与えられる「癒し」というものもありますので、是非自分の力だけではなく、周りの人が生み出した優しさや思いやりを子供や自分に与えてあげることも豊かな心を育てるひとつの方法と言えるでしょう。

4. いつも味方である

小さい頃は「親」が絶対であり、心の支えでもあります。いつも豊かな心で安心して育って行って欲しいと願うのなら、やはりどんな時も子供の「味方である」という事が大切になります。間違えた事をして「いい経験したね」と褒めて、認めて、励ましてあげることで人は自分を許し、他人を許す事ができます。豊かな心が育つと豊かな人を引き寄せます。それは良き友であり、良き恋人であり、将来その人が築く全部の根本となるのでとても大切です。今この話を読んで「そんな風にできなさそうだな」と思った人は、まずは自分自身にそういった言葉をかけ、今までの事を大人になったあなたが許して励ましてあげてみてください。子供をある程度育てた親として、上手く出来なかったなと思うような節があって、自分を責めてしまっている人は「今」からやり直せばいいこと。きっと子供にもそれが伝わり改善に向かうことでしょう。

5. 怒らず応援する

小さい時に沢山怒られたり、否定をされると子供の心は萎縮してしまい、豊かな心とは程遠くなりがちです。きっと子供を怒ってしまう人は、自分が親から怒られて育ったからかもしれません。豊かな心を育てるには「自立」を促し、「応援」する方法が効果的です。なんでも自分でやらせてみて、出来たら褒める。できなかつたらできるまで側にいて応援する。嫌になったら「辞めてもいいよ」と逃げ道を作ってあげる。など、ひとつの苗木が倒れないように土と支柱の役割を果たしてあげると、真っ直ぐ豊かな実りのある木(子供)に育つでしょう。

いかがでしたでしょうか？子供と言えど自分自身ではありません。自分の子供だからといってなかなか思い通りになる訳などありません。思い通りになると思って行動すれば、思い通りにならないことに悩んでしまう事でしょう。生まれてきたその「生命」そのものを、慈しみ見守るという尊敬の念を、常に持ち続け、自分も子供も共に成長していけたらいいですね。